

★EVENT Cadet Bar 1 ★

日時：2013年11月5日（火）15：00～19：30

場所：基礎工学研究科J棟 カデットプログラム多目的講義室

概要：履修生はじめカデットプログラム関係者の自由な意見交換の場として第1回の Cadet Bar を大型教育研究プロジェクト支援室 URA の高尾先生を講師にお招きし、カデット生 22名に加えてメンターの先生方も参加して開催しました。



冒頭に、飯島先生より Cadet Bar 開催の背景と Bar の目的を説明頂き、続いて履修生の自己紹介を兼ねて、研究室ローテーションの報告を参加履修生全員が行った。履修生からは、研究室ローテーションでの充実した取組に加えて次年度以降に向けて、他のリーディングプログラムもローテーションに加えてはどうか、履修生が交流できる場を増やしていくべきといった前向きな提案が有りました。



高尾先生からは、「博士課程教育の新たな試み」と題して、リーディング大学院プログラムとしてカデットプログラムが設立されるに至った背景を、日本の大学院、特に博士課程の課題やそれに対する文部科学省の考え方を踏まえて、研究 COE、21 世紀 COE、グローバル COE とつながったこの 15 年間の歴史を振り返りながら詳細にご説明いただいた。また、履修生は Cadet プログラムに選ばれたリーダー候補生としての責任を自覚し、正しい資質を持つことを期待されており、それに応える義務が有ることを動機付け頂いた。加えて全国では物質系で 6 つのプログラムが活動しており、同期のリーディング生に決して負ける事の無い様に努力すべしという暖かくも厳しいエールが贈られた。

その後の、アルコールも入った懇談会では、例えば官の世界で科学行政に携わりたい、現在の研究を社会に役立てたい、企業が博士課程修了者に期待することなど高尾先生に具体的な課題をぶつけて和やかな中にも厳しい意見交換がなされた。そういった意見交換の

中で、履修生からもっと幅広く物質科学について知る場を自分たちで創っていこうという発案があり、勉強会がスタートすることになった。それを受けて、高尾先生から今後皆さんが物質科学に携わる仕事をする以上、避けて通れない「原発の問題」についてぜひ議論したいのご提案があり、次回 Cadet Bar 2 のテーマとして取り上げ、議論することとした。



<履修生の感想>

履修生全員が集まる機会が少ないカデットプログラムにおいて、このカデットバルは非常によい機会だと思う。また、みんなで勉強会をやろうと企画したら、ほとんどの人が参加を表明してくれ、カデット生の意識の高さに驚いた。高尾先生から、履修生に対する期待などの具体的な話なども聞くことができモチベーションもあがり、次回も是非参加したいと思う。(工学研究科 生命先端工学専攻 修士2年 宮野哲也さん)

<特任教員の感想>

奨励金の魅力や、異分野履修科目、国内、海外研修といったキーワードに魅かれて履修生になった人が多いと思う。それに対して、高尾先生から履修生に選ばれた者として期待されている事、過去の先輩たちの歴史の上に自分たちの立ち位置を作って欲しいという要請が具体的に発信され、これまでに無い貴重な機会であったと思います。高尾先生の期待に、その場で皆が応えてくれたのは「さすがカデット生」と少し誇らしく思いました。次回以降も教員の先生含め多くの方が参加して頂けると期待しています。(飯島賢二教授)